



郡上北高校 探究通信

no.2

今年度は、一年間以下の取組目標のもと授業改善に関する研修を行ってきました。

目標:わかる授業の展開と読解力の育成をするための手立て・探究活動の追求

取組内容:教員が以下のことを意識しながら授業を行い、研修を通して改善をしていく。

また、生徒が安心、安全に過ごせるような手立てを理解し実行できるように研修を計画・実施する。

- ①生徒の基礎学力の定着及び理解を深める授業手法として何が良いのか。
- ②いかにして集中できる授業環境を整え、生徒が学び合える環境にしていけるか。
- ③わかりやすい授業を目指した授業の手法についての情報交換や教材の交流
- ④探究活動ではどのように生徒と関わっていけばよいのか。など

今年度の研修時および研修後アンケートの総括

① わかりやすい授業・基礎学力の定着について

本校の授業では、ICT の活用や協働的な学習が自然に取り入れられており、生徒が意欲的に活動できる場づくりが進んでいると感じました。また、ICT を使った視覚化や段階的な提示、ルールの明確化など、生徒が活動のねらいを理解しやすくする工夫も多く見られ、どの先生方も学びやすい環境を大切にされていることが伝わってきました。

その一方で、生徒が教科書や板書を丁寧に読み取ったり、ノート・ワークシート・小テストなどを通して自分の考えを言葉で表現したりする場面については、活動とのバランスを今後どのように整えていけるかが、さらに充実させていけるポイントかもしれません。思考を言語化する機会が増えることで、学びがより深まる可能性があるように思います。

また、小テストなどの形成的評価は、基礎的な力の定着に効果があると言われています。こうした評価に加え、板書の工夫やプリント記述などの客観的な支援を組み合わせることで、読解力や理解の深まりにつながっていくのではないかと感じました。

さらに、私自身の授業経験でも、活動型の学習では生徒が「やった気になってしまう」場面が出てくることがあります。ICT を含むさまざまな手立てを活用する際には、改めて目的をはっきりさせることで、生徒の学びがより確かなものになるのではないかと感じました。こうした工夫が、生徒一人ひとりの主体的な学びを支えていくのではないかと考えています。

② 探究活動について

昨年度の報告では、探究活動において、生徒が自ら考え、必要ときに助けを求められる環境づくりや、教員がそっと寄り添いながら伴走する関わり方の大切さについてまとめました。また、生徒の興味から出発した活動や、適切なグループ編成、発表の機会の設定が、主体的な学びを育てることに触れました。

今回の結果からは、多くの先生が

「生徒の考えを否定せず、対話を通して深めていくこと」

「情報収集の方法を具体的に示してサポートすること」

「生徒が自分のペースで進められるよう、進捗をあたたく見守り支えること」

を大切にされていることが分かりました。

これらの取り組みから、生徒の意見を尊重し、同じ目線で関わろうとする姿勢が本校の探究活動の中にしっかり根付いてきていると感じます。また、「各教科の探究的な授業で行われている生徒発表を公開することで、お互いに学び合えるのではないか」という意見もあり、校内で学びを共有するよい機会になると考えられます。

さらに、生徒自身が探究活動や教科横断的な学びを進めるなかで、深く考えるためには基礎となる知識の積み重ねが大切であるという気づきも見られました。こうした気づきが、ふだんの授業での学習意識の向上につながり、新しい学びのサイクルが生まれていくと良いと思います。

教員同士が探究活動の取り組みを積極的に公開し合うことで、「本校だからこそできる学び」をさらに深めていくことができるのではないかと考えています。

以下は、昨年度報告した内容の抜粋になります。

<R6 年度 探究通信2より>

探究的な学びを成立させるうえで重要なのは、生徒が「自ら考え、動き出す環境」を整えることです。教員が先回りして正解を与えるのではなく、生徒が適度に困る状況をつくり、その困難を自覚し、助けを求められるように支援する姿勢が求められます。声かけは、ファシリテーターとして行動を促すか、コーディネーターとして理由を整理させるなど、目的に応じて使い分けことが重要であることがわかりました。また、4～6 人程度の適切なグループ編成、生徒の興味から出発するテーマ設定、発表と相互評価の機会の確保が、生徒の主体性と協働的な姿勢を育みます。生徒が自走し、問いを深め、堂々と発表できるようになる過程そのものが探究の成果であり、教員は一人の人間として寄り添いながら、成長を支える伴走者であることが今後求められると考えます。

<来年度の研修に向けて>

来年度の研修の改善点・希望として以下のような内容があがりました。必須の研修も多く、精査する必要もあるというご意見もいただきました。それを踏まえて自主的な研修など必要に応じて参加できる研修も来年度検討できたらと考えています。また、行いたい研修やアイデアなどがありましたらお知らせください。

① ICT・AI 活用に関する研修

- ・実際に AI を使っている授業事例の共有
- ・授業での ICT 活用方法について
- ・生成 AI を活用した授業展開のアイデア
- ・AI が導入され便利になっているはずなのに、業務量があまり減らないことへの違和感についての意見交換
 - ↳ 働き方改革との関連も含めて理解を深めたい

② 生徒指導・進路指導に関する研修

- ・生徒指導に関する考え方の共有
- ・進路指導の業務や進め方についての若手向け研修
 - ↳ 「進路業務は毎年変更があるため、流れを把握する研修があると助かる」
- ・総合型選抜(AO 入試)を見据えた授業づくりや学校運営について

③ 教務・事務関連の研修

- ・時間割変更ソフトの操作方法(教務で実施予定)

④ 探究活動に関する研修

- ・各教科で行われる探究的な授業における、生徒発表の公開授業
- ・探究活動を他教科とつなげるための工夫や情報共有

⑤ 研修内容に関する意見・改善案

講師を招くときは「講義だけでなく」

- 教員の困りごとを集め、それに答える Q&A 型の研修 があるとありがたい
 - 講義だけだと、理想と現実のギャップを感じることもある
- 同じ教科同士で集まり、授業案を一緒に作るアウトプット型研修をやってみたい
- 職員の負担にならない範囲で実施できるとよい

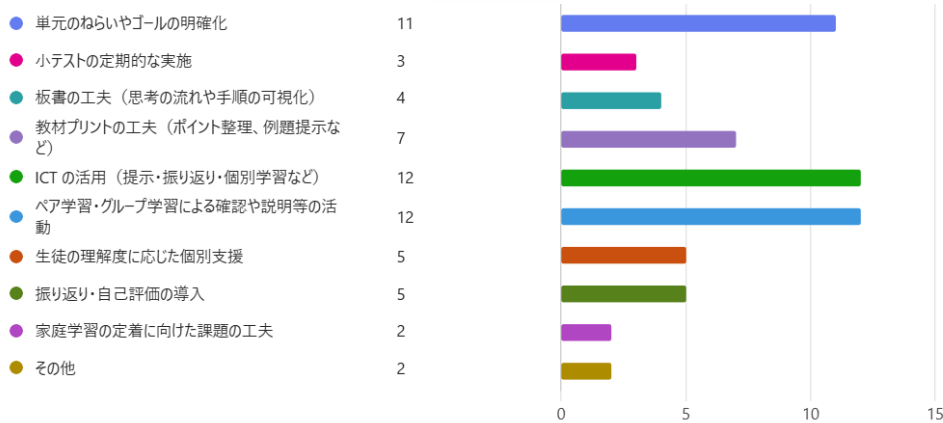
⑥ 研修量・負担に関する意見

- ・研修は大切だが、あまり多すぎないほうがよい
- ・授業研究会の時期が「研修旅行直前」のため、教員によっては負担が大きい
- ・忙しい時期の研修は参加しにくいので、時期の配慮があると助かる

以下は、今回の研修後アンケートになります。本校の先生方が一年間どこに力を入れていたのか見ていただき、来年度への参考にしてください。

Q1:「生徒の基礎学力の定着及び理解を深める授業手法」について、
授業で特に実践あるいは活用できたことはありましたか?(複数回答可)(n=20)

①単元のねらいやゴールの明確化 ②ICTの活用 ③ペア学習・グループ学習での活動
が特に実践あるいは、活用していることがわかります。



更に、今回多かったパターンは以下の4パターンにわかれてきました。

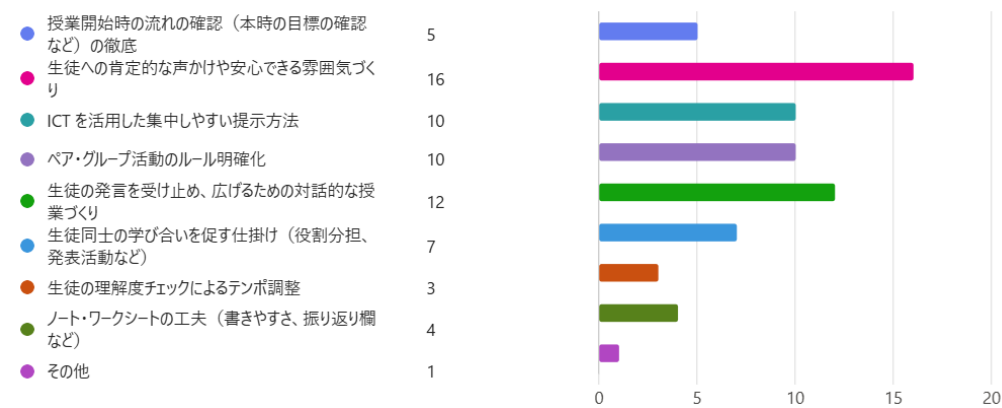
パターン 1: ICT × 協働学習 × 目標明確化・・・授業の主体的な活動につなげる

パターン 2:教材工夫 × 板書工夫 × 小テスト・・・学習内容の理解に関する過程を含めた支援

パターン 3:個別支援 × ICT・・・個別最適化した指導を意識している。

パターン 4:振り返り・自己評価

Q2:授業環境(集中しやすい環境・学び合い)の整備のために、あなたが特に意識したことを選んでください。(複数選択可)



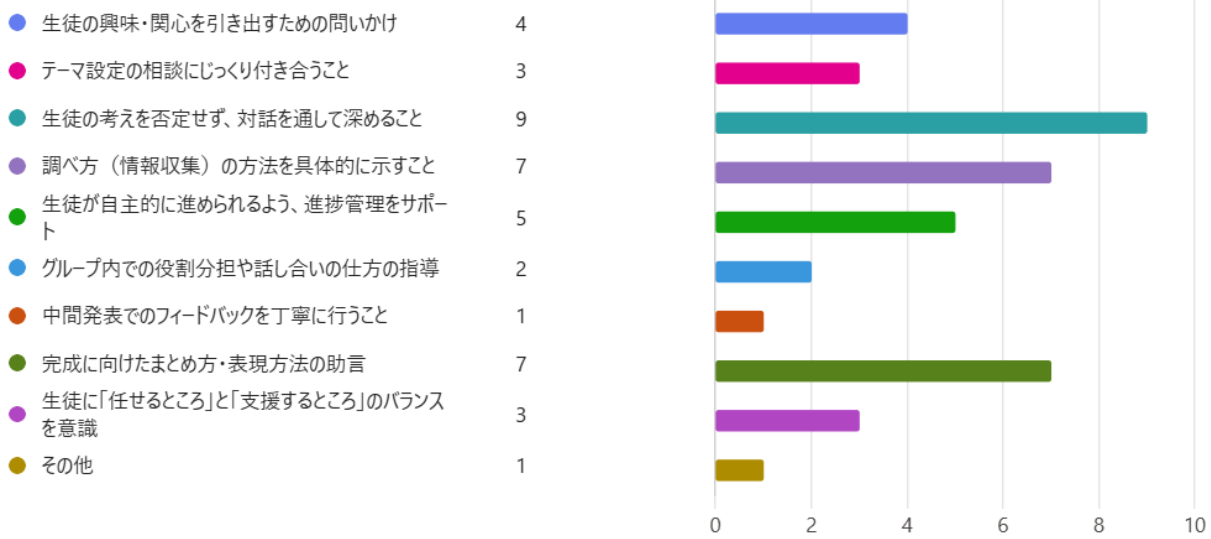
もっとも多いのは心理的安全・安心の環境づくり(肯定的声かけ、対話的授業)が多くありました。

さらに、複数回答をみてみると、

- 肯定的声かけ × 対話的授業 : 11件(52%)
- 肯定的声かけ × ルール明確化 : 7件(33%)
- 肯定的声かけ × ICT提示 : 6件(29%)
- 肯定的声かけ × 学び合いの仕掛け : 6件(29%)
- 対話的授業 × ルール明確化 : 5件(24%)
- 対話的授業 × ICT提示 : 5件(24%)

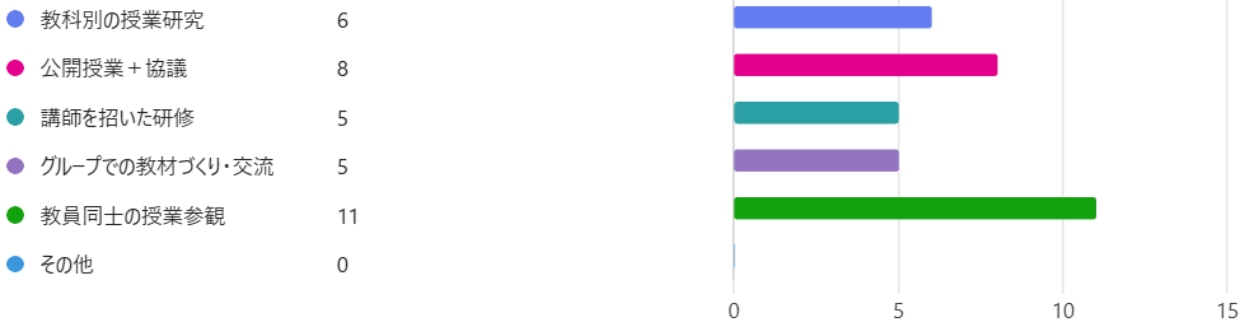
「肯定的な声掛け×○○」と、複数組み合わせることで、更に安心感のある授業づくりに繋げている先生が多いと感じました。

Q3: 探究活動における生徒との関わり方として、あなたが今年度に意識したことを選んでください。(複数選択可)



「生徒の考えを否定せずに、対話を通して深めること」「情報収集の方法を具体的に示すこと」「生徒が自主的に進められるように、進捗管理をサポート」を主に多くの先生方が大切にしています！

研修の形式について希望があれば教えてください。(複数回答可)



教員同士の授業参観、日ごろの授業の見学のしやすさが今後も続けばと思います。来年度の参考にします。